公益社団法人日本動物学会　2025 年度第 3 回理事会　議事録

1. 開催日時　　2025 年 12 月 12 日（金）10 時 00 分～12 時 00 分

2. 開催場所　　Zoom により実施

3. 理事総数及び定足数
　　総数　21 名　定足数 11 名

4. 出席理事数　18 名

（出席）小川 宏人、熊野 岳、渡邉 明彦、伊藤 悦朗、深津 武馬、田中 幹子、和田 洋、
吉田 学、三浦 徹、阿部 秀樹、小柳 光正、志賀 向子、植木 龍也、岡田 二郎、
山脇 兆史、小柴 和子、佐倉 緑、吉田 薫

（欠席）勝 義直、浮穴 和義、東城 幸治

（監事出席）大島 範子、田島 節子

理事出席者　18　名、監事 2 名の出席を得て、理事会は成立となった。議長は、志賀向子会長。議事録署名人は、定款 35 条 2 項により、会長、大島範子、田島節子 両監事。

5. 報告事項

1)　議事録の回覧（資料１－１、１－２）

2025 年度第 2 回理事会の議事録（資料１－１）および 2025 年度第 1 回総会の議事録（資料１－２）が回覧された。

2)　会長報告

12 月 8 日の青森県沖地震に関してのお見舞いと、被災した会員がいる場合には会費免除も検討するので、周囲にそのような方がいる場合には事務局へ連絡してほしい旨の挨拶があった。

3)　理事活動報告

- すべての理事の活動報告については、業務執行報告として別紙（DropBox の資料として確認）の理事報告書の提出を受けており、その内容で理事の理事会における業務執行報告とする旨、出席理事全員が了承した。

  勝義直、小川宏人、熊野岳、渡邉明彦、深津武馬、田中幹子、伊藤悦朗、和田洋、吉田学、三浦徹、阿部秀樹、東城幸治、小柳光正、志賀向子、植木龍也、浮穴和義、岡田二郎、山脇兆史、小柴和子、佐倉緑、吉田薫

- 第 97 回大会（2026 年）札幌大会準備状況報告（小川理事、資料２−１、２−２）

大会長の勝理事に代わり、小川理事より札幌大会の準備状況について、11 月 5 日に本部事務局佐藤さんを迎えて準備委員会のメンバーとの打ち合わせを行ったこと、参加登録確認と大会ホームページを公開したこと、1 回目の大会案内のメール送信を行ったこと、大会ポスターが完成したこと、等が報告された。

- 第 98 回大会（2027 年）東京大会準備状況報告（田中理事）

田中理事より、東京大会の準備状況について、2027 年 9 月 1 日〜4 日の日程で、明治大学駿河台キャンパスを会場として開催予定であること（2027 年 1〜2 月に確定）、懇親会場には如水会館を予定しているが収容人数に上限があるため、申込時にアナウンスする予定であることが報告された。口頭発表の会場は 10 会場で三日間、託児室、休憩室なども含め、会場費は 150 万円程度となる予定。

- 第 99 回大会（2028 年）近畿大会準備状況報告（小柳理事）

小柳理事より、近畿支部会において日下部会員に大会長を引き受けてもらうことが決定されたことが報告された。会場はおそらく甲南大学を使用することになりそうだが、日程も含めて詳細は未定。

4) 委員会報告

- IT 委員会報告（吉田理事、資料３）

吉田理事より、会員データベースの情報について、（会員サイト上で）公開する項目を各会員が選べるようになったこと、所属機関ではなく自宅等を連絡先住所に設定している場合には、氏名と所属機関名のみが公開される様にデフォルトで設定されていることが報告された。公開項目の設定については、会員に対して一斉メールで連絡する。

- 教育委員会報告（和田理事、資料４）

和田理事より、高校生発表の倫理規定と、小中高校生への啓蒙活動についての報告があった。前者については、昨今様々な高校生による発表があるため倫理規定の必要があること、過去の支部大会で申込フォームに一定の説明があることが確認され、生科連などと協調してガイドラインの策定を働きかけていく。後者については、これまでの大会での高校生発表や一般向け講演会とは別に、臨海実験所等の公開や出前授業の斡旋、NPO 法人や水族館の活動支援などを行えないかが議論された。

- 賞担当理事報告（伊藤理事、資料５）

伊藤理事より、2025 年度井上学術賞（2025 年度）に本会から会員 2 名の予定であったが、推薦日を間違えたために推薦できなかった。担当理事として当該会員に深くお詫びし、理事会においてもお詫び申し上げる旨の報告があった。

- 男女共同参画委員会報告（渡邉理事、資料６）

渡邉理事より、男女共同参画学協会連絡会の運営検討ワーキンググループによる役員選出学協会の担当に関する意向調査に対して、「新会員を含めてより多くの学協会が役員選出学協会を経験することが今後の連絡会の発展的な事業運営に役立つと考える」こと、「動物学会が役員選出学協会を再度担当（第 11 期に担当）することは折々の状況に応じて検討する」ことを動物学会として回答とした旨報告があった。

6. 審議事項

第一号議案　2026 年度学会賞等選考委員会委員選出について（吉田庶務、当日資料）

吉田庶務より選考課程と被選出委員対象者の説明があった後、選考委員の選出結果が報告された。そのうち、生理分野については同得票数の理事が 3 名であったため、会長によるくじ引きによって決定され、承認された。

第二号議案 2026-2027 年度理事, 支部代表委員選挙　選挙管理委員会選出について（吉田庶務、資料７）

吉田庶務より理事、支部代表選挙・選挙管理委員会委員の選出について説明があった後、志賀会長より田中理事が委員長に、浮穴理事、山脇理事が委員に推薦され、承認された。

第三号議案 Zoological Letters 投稿促進のための APC 免除枠導入について（田中理事、資料８－１、８－２）

田中理事より、最近 ZL 誌の年間投稿論文数が減少していることから、ジャーナルの存続とさらなる発展のため、投稿論文数の増加を目的として、年間 7 本の APC を向こう 3 年間免除する提案があった。ZL 誌の APC 2,090 US$×7 本分の約 230 万円を 3 年間支出することについて佐倉会計担当理事から報告があり、年度収支差額は年度によって変動するが、繰越金額を使うことで支出は可能とのことであった。APC 免除を会員のみに限定することは公益事業にあたらないのではないか、という指摘もあったが、議論の上、承認された。

第四号議案 茗原助成の募集期間の変更について（伊藤理事、資料９）

伊藤理事より、今年度の茗原助成の選考委員会から応募数に対して選考期間が短すぎるという指摘があり、2026 年度より募集期間を短くしたいという提案があった。具体的には 2026 年 4 月 1 日（水）〜4 月 30 日（木）を募集期間としたい（2025 年度は 4 月 2 日（水）〜5 月 7 日（水））。審議の上、承認された。

第五号議案 秋の財団推薦の募集期間の変更について（伊藤理事、資料１０）

伊藤理事より、今年度の井上学術賞推薦におけるミスの反省から、学会内推薦審査に十分な日程を確保するために、2026 年度より学会内締切を 8 月 20 日としたいという提案があった。具体的には 2026 年 7 月 21 日（火）〜　8 月 20 日（木）を募集期間としたい

（2025 年度は 8 月 1 日（金）～ 8 月 31 日（日））。合わせて庶務理事が事務局と協力して日程の確認を行うこととしたい旨も提案があった。審議の上、承認された。

第六号議案 代議員制導入のための定款改定について（志賀会長、資料１１−０、１１−１、１１−２）

前回理事会から検討を進めていた代議員制の導入について、志賀会長からそのための定款改定内容の提案があった。主に、⑴代議員数、⑵選出方法、⑶代議員総会開催方法について具体的な議論が行われ、最終的に以下の様な方向で定款改定を行うことになった。

(1) 代議員数について

- 代議員は 会員 30 名につき 1 名を基準として、支部ごとに選出する。
- 支部ごとの会員数に基づき、選出人数を事務局で算出する。

(2) 選出方法について

- 代議員選挙権および被選挙権をもつのは、理事を除く、一般会員、学生会員、小中高教員会員、高齢会員、 永年会員、海外会員とする。
- 代議員選挙は理事選挙後（7 月）に実施する。
- 支部代表委員は、これまでと同様理事選挙時に選出するが、代議員の選挙権および被選挙権を持つ（定款には支部代表委員について明記しない）。
- 関東支部での代議員選挙における記名者数は別途定める。

(3) 代議員総会について

- 本大会現地とオンラインのハイブリッド開催とする。
- 代議員総会のための旅費支給は行わない。

2026 年の総会で定款の改定を行うとともに、代議員選挙に関する細則を整備し、次年度（2026-2027 年）から代議員制を導入する予定。第六号議案は継続審議となった。

7. その他

第 4 回理事会は 2026 年 6 月（オンライン開催）を予定。

大島監事、田島監事より、学会運営についての意見があった。特に田島監事より、高校生発表の倫理規定について、一般発表も含めて動物学会の倫理規定を明示して、発表申込時にチェックを入れるようにしてはどうか、という助言があった。

2025 年　12 月 12 日

上記の内容で相違ないことを証するため、ここに記名押印をする。

会長　　志賀　向子

監事　　大島　範子

監事　　田島　節子